

## 報 告

## 近畿病院図書室協議会第40回総会・第133回研修会 参加記

中島 志乃

研修会に参加するたび、実用的な知識を持ち帰ることができます。

このたびの会の中でも、外国雑誌電子化、病図協設立についてのお話は、ここ数年にわたって気になっている事項の参考となるものでした。

雨乞さんのご報告にあったように、外国雑誌の電子化を進めるのであれば、数年かけて計画的に行うことが、利用者の協力を得やすくするポイントかもしれません。EJ 食わず嫌いの職員の方にEJに慣れてもらえるようにと、冊子体とEJの両形態を揃えられたという丁寧なご対応を見習いたいと思いました。

また、椎木さんは、電子ジャーナル導入後のILL件数変化のご報告の中で、図書室ホームページやリンクリゾルバがあると、利用者にとって電子製品は使いやすくなり、より身近で便利なものとなるとおっしゃっていました。情報入手が簡便になるのは利用者にとってありがたいことでしょう。電子製品の選定・導入に留まらず、利用促進のためにURLを載せたPDFファイルを院内の端末に保存して回っているという草の根活動に、頭が下がる思いでした。

当院はインターネット環境が整っておらず、また、冊子体にこだわる利用者も少なくないの

で、いまだにEJに比べ冊子体を多く契約しています。講演会で首藤さんがおっしゃっていた「電子製品の不安定さ」このことを承知しながらも時代の趨勢に従っていくのがよいのか、どの部分を優先させるべきなのか、職員の利用の仕方や環境を踏まえた上で慎重に検討していきたいと思いました。

首藤さんのお話では、病図協の成り立ちについても知ることができました。「一人で解決できないことを相談できる場を」と作られた担当者の集まり。最近、近隣病院に図書室担当者がいることがわかり、何かと用事を作っては集まるようにしています。頻度はそう多くありませんが、ご近所さんならではの利点があると感じています。

他病院担当者の方との繋がりのおかげで、自分の持っていない知識を利用者に提供することができています。他機関との関係作りに一層励むと同時に、いつもご相談するばかりでなく、自己研鑽していかなければと改めて思うことのできた会でした。そして「何事も丁寧に、利用者を第一に」と仕事に臨む姿勢を見直すきっかけもいただきました。